



infoteria VISION

第20期中間報告書 2017.4.1~2017.9.30

ごあいさつ

Top Message

インフォテリアは、システム、ヒト、モノ、
そしてオモイを未来へ「つなぐ」企業として
成長を続けてまいります。

株主の皆様には、平素より格段のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社グループの事業は、「ソフトウェアで世界をつなぐ」をコンセプトに、情報システムや情報間を「つなぐ」(文字情報、数値情報、画像情報などデジタル化可能な情報の交換)ためのソフトウェアを開発し市場に提供しております。

当期におきましては、第1四半期中(2017年4月20日)に、英国This Place Limitedを買収したことにより、「デザインサービス」を新たに売上として追加することとなり、この売上が従来の「サービス売上」のみならず、売上高全体も大きく増加させました。その結果、当第2四半期連結累計期間における売上収益は1,473.6百万円(前年同期比89.9%増)、営業利益は319.2百万円(前年同期比143.3%増)、税引前四半期利益は219.1百万円(前年同期比61.0%増)、親会社の所有者に帰属する四半期利益は130.3百万円(前年同期比47.8%増)となりました。

今後も当社事業の拡大と、さらなる企業価値の向上に取り組んでまいります。株主の皆様におかれましては、今後とも経営へのご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

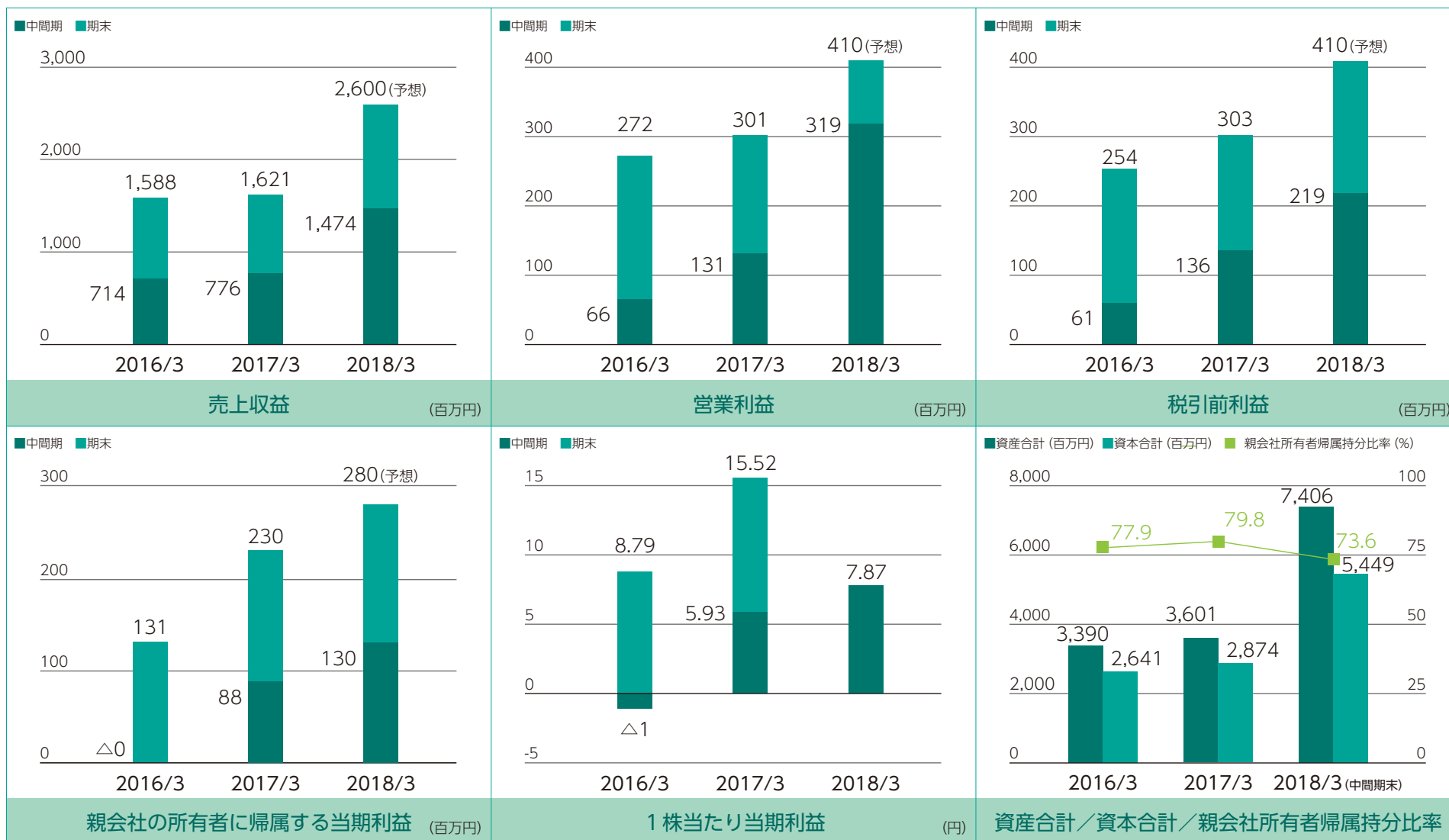
代表取締役社長 / CEO 平野 洋一郎



財務ハイライト

Financial Highlights

当第2四半期では、中核製品であるASTERIAは導入社数を6,497社(709社増)とし、Handbookの累積契約件数も1,326件(188件増)となるなど、順調に事業拡大を継続しています。またThis Place社の買収効果により、売上・利益ともに大幅に伸ばしました。





9月に開催したRPA入門セミナー

RPA*におけるASTERIAの価値

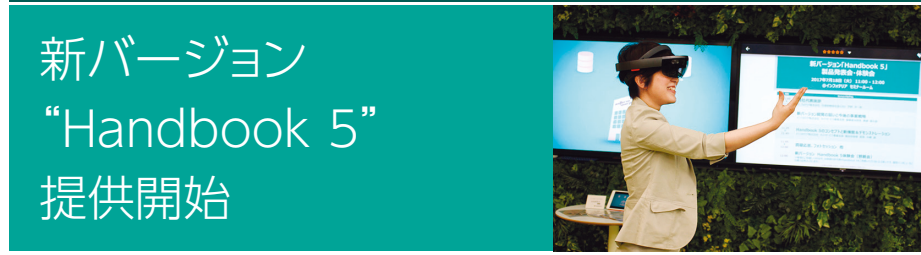
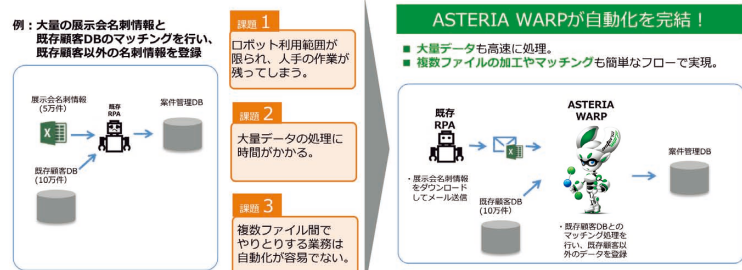
政府主導の「働き方改革」が積極的に推進される中、現場の業務生産性を高める手段として「RPA」が注目されています。その中で「業務自動化」を実現するASTERIAがRPA関連においても脚光を浴びており、セミナーや業務自動化関連のコンテンツが人気を集めています。

「RPA」とは、ロボット(ソフトウェア)による業務自動化の取り組みを表す言葉で、正確かつ高速に、また労働時間にとらわれることなく定型業務を遂行することを可能にするものです。データ連携ツールとしてシェアを獲得しているASTERIAですが、定型作業を自動化することで作業コストや人的ミスの低減にも貢献するだけでなく、ヒューマンリソースマネジメントの観点においても絶大な効果を発揮いたします。人財をより創造的な業務へ登用することができ、結果、企業の市場競争力を高める切り札になりうるのです。

ITによる新しい企業価値の創造は当社の創業当初からの想いであり、ASTERIAは、少子高齢化や長時間労働などのさまざまな社会問題を解決するために、貴重な「リソース」として貢献できるよう今後もチャレンジを続けてまいります。

*RPA: Robotic Process Automation ロボティック・プロセス・オートメーション。人が行っていた業務の処理手順を操作画面上から登録しておくことで、ソフトウェアなどが自動的に処理すること。

RPAをさらにパワーアップするASTERIA



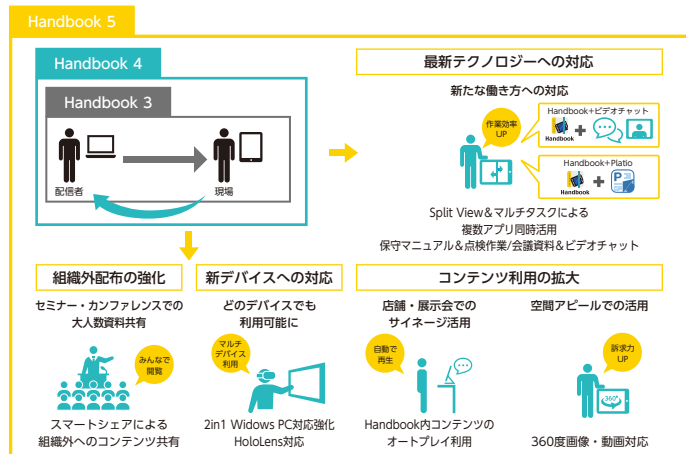
Handbook 5によるHoloLens対応

管理から活用へ。モバイルコンテンツの用途&シーンが拡大

Handbookは2017年8月に最新版であるHandbook 5をリリースいたしました。Handbook 5では、従来のペーパーレス会議や営業現場での電子カタログでの利用に留まらず、モバイルワークなど働き方改革に向けた機能強化や販促現場でのデジタルサイネージ、またセミナー参加者に対する資料の一括配布など、より多くのビジネスシーンで活用できるような拡張をしております。

その他にはビジネス現場で本格導入が始まっているWindows 10に対応したバージョンの強化やHoloLens*といった最新テクノロジーへの対応など、将来的な観点を視野に入れた製品となっております。

*HoloLens: マイクロソフト社が2017年3月に発表したMR(合成仮想現実)デバイス。頭につけるタイプのヘッドマウント型のディスプレイを通じて現実とバーチャル空間を融合した世界を体験できる。ウェアラブルデバイスとしても、新たなディスプレイとしても注目されている。



IoT向けミドルウェア “Gravio(グラヴィオ)”の 販売を開始



CEATEC JAPAN 2017でのGravio展示

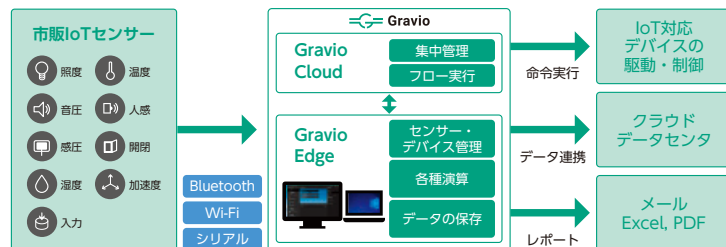
最新のエッジコンピューティングを手軽に実現

少子高齢化による労働人口減少や働き方改革といった社会課題を最新のITテクノロジーで解決するために有望視されているIoTソリューション。多種多様なセンサーを簡単に接続し、得たデータを基に、求められる作業を現場で簡単かつ迅速に行いたい。Gravioは、エッジコンピューティングと呼ばれる技術を基に、効率的なデータ収集と活用をシンプルに実現するために開発された製品です。

国内シェアNo.1のASTERIAで培ったノンプログラミングによる快適な使用感はそのままだに、各種センサーデータの取得、加工、処理、対象機器の制御までエッジで一元処理が可能です。また、動作環境はMicrosoft社Windows 10を採用しており、企業・団体で一般的な環境への親和性が高く、簡単に導入できるように考えられています。

誰でも使える、すぐに結果が出せるIoTソリューション。それがGravioです。

Gravio：システム概要



エッジコンピューティングとは?

データの送信元となるセンサーから物理的に近い場所にエッジサーバーを置くことで、ビッグデータの一次処理としてデータを加工したり、データ送信におけるネットワーク帯域の負荷を軽減することで、クラウドによる一極集中を避け、分散型のデータ処理を行うコンピューティングメソッドです。

日英ビジネスフォーラム パネルディスカッションに代表平野が登壇

2017年8月31日に英国首相 テリーザ・メイ氏の来日に際して開催された「日英ビジネスフォーラム」(主催:英国国際通商省、ジェトロ)にて行われたイノベーションに関するパネルディスカッション「Innovation through Partnership」に、当社代表の平野が登壇いたしました。

EU離脱後の日英の経済関係に注目が集まる中、同フォーラムには両国の企業関係者ら約200人が参加。当社は4月の英国企業This Place社買収など日英企業の協業における直近の成功事例として駐日英国大使館を通じて同フォーラムに招待されました。



ブロックチェーン・仮想通貨・ICOがわかる説明会 「Blockchain Briefing」開催

2017年9月14日に報道機関・機関投資家を対象として“Blockchain Briefing”を開催いたしました。

仮想通貨などを含めたブロックチェーン関連領域の進化のスピードは非常に速く、大きな変化がさまざまな形で起こっています。本説明会は、これらに関する基本知識から、ICOなどの新しい枠組みを理解するための必要な知識を効率的に学べる場とし、当日は60名以上の参加者が集まりました。当社ではブロックチェーンコンサルティングサービスも開始し、自社の事業拡大だけでなく、業界の拡大・認知促進にも貢献してまいります。



秋田県仙北市の農家民宿で 「ふるさとテレワーク」を实践



<https://www.infoteria.com/jp/inlive/infoteria/1418/>

秋田県仙北市の農家民宿に滞在し「ふるさとテレワーク」の実証実験を行いました。同市にはWi-Fiを完備した農家民宿が多く存在し、地方ならではの環境の良さも相まってテレワークにも適した条件が揃っています。

また、同市は外国人観光客などを対象としたグリーン・ツーリズム*にも注力しており、タブレットに多言語観光コンテンツを入れたHandbookをインストールして仙北市内の3か所の農家民宿に実験的に配備。地方創生の一端に協力してまいりました。

詳細なレポートを当社サウンドメディア「技術と人をつなぐテクノロジー in.LIVE」にて掲載しております。あわせてご覧ください。

*農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動





金融分野への参入

新たな挑戦を支える攻めのガバナンス

平野 洋一郎 × 五味 廣文

インフォテリア代表取締役社長／CEO

インフォテリア社外取締役



対談のロングバージョンはこちら
https://www.infoteria.com/jp/news/prblog/2017/12/09_01.php

— 五味さんがインフォテリアの社外取締役に就任した経緯を教えてください。

平野洋一郎(以下:平野)：近年「フィンテック」が注目されるようになり、金融分野でも新しい技術を取り入れて革新的なサービスの提供を考える企業が増えています。ビットコインなどの仮想通貨を支えるしくみである「ブロックチェーン技術」に取り組んでいる私たちにとって、これはとても大きなチャンスです。

しかし、これまでインフォテリアの製品は金融業界での採用は少なく、あまり得意としていませんでした。やはり本格的に金融分野に参入するには、関連する法令や業界特有のレギュレーションに強い専門家をチームに迎える必要があると感じ、長年金融行政の中心で活躍されていた五味社外取締役の力をぜひともインフォテリアに貸していただきたいとお願いしました。

五味廣文(以下:五味)：最初にお話をいただいた時には、少し戸惑いました。IT関連企業でも取締役を務めたことはありましたが、財務会計のソフトウェア開発など比較的これまでの経験に近い内容でした。しかし、インフォテリアは極めて高度な技術に取り組んでいることから、「自分は先進的な技術にあまり詳しくないが大丈夫だろうか…」と考えました。

その後、詳しく話を伺ってみると、社外取締役として経営管理が正しく行われているかなど、さまざまなステークホルダーの視点からアドバイスするという役割を求められていると知って、それならば、とお引き受けしました。

— 実際に就任してみて、インフォテリアの印象はいかがですか。

五味：高い技術力で先進的な製品を開発し、機動力もあるダイナミックな企業だと思っています。ただ、少数精鋭で発展



してきたため、経営管理へのリソースの割り当てに苦勞している印象がありました。

管理部門のような間接部門は、直接利益を上げるわけではありません。企業が成長してその価値を高める、あるいは企業価値を損なわないためには、ガバナンスを強化し、コンプライアンスを徹底させ、利益管理を行う必要があります。新しいことにチャレンジする時こそ、押さえるべきところは押さえないければならないのです。

企業が急速に成長している時、特に新しい分野に踏み出そうとしている時には、どうしても意識やリソースがそちらに集中しがちです。たとえば1997年のアジア通貨危機や、2008年のリーマンショックなどは、爆発的に成長したビジネスに経営管理が追い付かなかったために発生しました。会社経営でも同じことが起きる可能性があります。チャレンジには、ガバナンスの強化やコンプライアンスの徹底が不可欠なのです。私は金融行政を監督していた経験から社外取締役として参画することになった立場ですから、新しいことにチャレンジするインフォテリアを見守り、経営の足元を固めるアンカー(錨)として応援していかなければならないと強く感じています。

— 就任されて一年半になりますが、五味さんはインフォテリアでどのように活躍していらっしゃいますか。

平野: 私たちにとって新しいビジネス領域である金融分野において、金融業界の関係者とのコミュニケーションを通じて製品を成長させる一方、企業が成長するためにやるべきこと、気を付けるべきことなどについてアドバイスをいただいています。インフォテリアは4月にM&A(企業合併/買収)を発表しましたが、実現に至るまで1年近く取締役会で議論を重ねました。五味社外取締役に企業経営に対するM&Aの位置づけ、コンプライアンスやガバナンスをどのように進めていくのかといった点で真摯なご意見をたくさんいただき、とてもよい形で関与していただいたなと感じています。今後もインフォテリアはM&Aを積極的に行っていくことを表明していますが、今回の経験でその基礎ができたと言えるでしょう。

五味: 今回インフォテリアは、企業規模から見れば大型のM&Aを行ったわけですが、これを機に企業が最低限やるべき経営管理について意見したことは、社外取締役に就任してから今までで最も大きな仕事でした。かつて私は金融庁長官として、金融行政を監督する行政官でした。その経験から、金融機関を管理するスタンダード、つまり最も信頼度の高いガバナンスが要求され、強い規制がある金融機関を管理する視点で、企業に必要なことは何かというお話をさせていただきました。内容的にはかなり厳しいスタンダードと言えますが、関係者の皆さんはとても頑張ってくれました。

— 株主や投資家に向け、今後のインフォテリアの展望をお聞かせください。

五味: 金融機能を提供する新しいテクノロジーは、これから爆発的に成長する分野であることは間違いありません。これまで金融機関が提供するものであった金融機能を、金融機関

ではないところが提供しようとする潮流が生まれています。インフォテリアはブロックチェーンなどの技術によって、この金融機能を実現するためのベースとなる先進技術を提供できる企業です。

これまでの実績から技術力もあることも証明されていますし、これらの技術に商品性の高い付加価値を与えるための思い切ったM&Aも行っています。これらのことを考えると、インフォテリアには将来性が大いにあると言えるでしょう。投資家の方にもぜひ注目してほしい企業です。

しかし、将来性のある企業であるからこそ、金融行政に長年携わった経験を持った社外取締役として参画した責任は大きいと感じています。爆発的に成長する企業は、足元を踏み外すと大きく崩れてしまう可能性もあります。そうなることがないように、しっかり役割を果たしていきたいと考えています。

平野: これまでインフォテリアは、フィンテックの「テック(Tech)」の部分をやってきました。つまりブロックチェーンなどの基礎技術です。株主や投資家の方々も、テクノロジーの将来性で注目して下さっていたかと思います。しかし、これから応用する段階に入ります。私たちはテクノロジーばかり見てしまいがちですが、五味社外取締役の知見や、異なる視点からの意見は非常に貴重です。これからも、よろしくお願ひします。



会社概要 (2017年9月30日現在)

商号	インフォテリア株式会社 Infoteria Corporation
設立	1998年9月
本社	〒140-0014 東京都品川区大井一丁目47番1号 NTビル10F TEL: 03-5718-1250
西日本事業所	〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田二丁目4番13号 阪神産経桜橋ビル 3F TEL: 06-6344-1065
資本金	22億6,841万円
事業内容	XMLを基盤としたソフトウェアプロダクトの開発・販売
従業員数(連結)	112名
海外拠点	<ul style="list-style-type: none"> ● Infoteria America Corporation ● 亿福天(杭州)信息科技有限公司 Infoteria (Hangzhou) Information Technology Co., Ltd. ● 櫻枫天(上海)贸易有限公司 Infoteria China Co., Ltd. ● Infoteria Hong Kong Limited ● Infoteria Pte. Ltd. ● This Place Limited ● This Place Inc.

役員状況 (2017年9月30日現在) ※は社外役員。

代表取締役社長/CEO	平野 洋一郎
取締役	※ 五味 廣文
取締役	※ 田村 耕太郎
取締役	※ Anis Uzzaman
常勤監査役	※ 赤松 万也
監査役	尾崎 常行
監査役	※ 小口 光
執行役員 副社長/研究開発担当	北原 淑行
執行役員/コーポレート本部長	齊藤 裕久
執行役員/中国開発センター担当	黄 曦
執行役員/Global COO	Dusan Hamlin

株式情報 (2017年9月30日現在)

発行可能株式総数	44,600,000株
発行済株式の総数	17,480,165株 (自己株式554,241株を含む)
株主数	13,339名

大株主 (上位10名)

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	出資比率(%)
平野 洋一郎	2,040,000	12.05%
北原 淑行	957,200	5.66%
株式会社SBI証券	885,200	5.23%
パナソニックインフォメーションシステムズ株式会社	550,000	3.25%
株式会社ミロク情報サービス	528,000	3.12%
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG(FE-AC)	247,500	1.46%
古谷 和雄	187,000	1.10%
永富 義人	162,900	0.96%
楽天証券株式会社	156,300	0.92%
NOMURA PB NOMINEES LIMITED A/C CPB30072482276	130,000	0.77%

(注) 1. 当社は自己株式554,241株を保有しておりますが、上記の表には記載しておりません。
2. 持株比率は自己株式(554,241株)を控除して計算しております。

株式の状況 合計株主数 13,339名

自己名義株式	0.01%
金融機関	0.06%
証券会社	0.19%
その他の法人	0.47%
外国法人等	0.50%

所有者別分布状況

個人・その他 98.77%

金融機関	1.19%
自己名義株式	3.17%
証券会社	7.12%
その他の法人	7.39%
外国法人等	8.86%

所有株数別分布状況

個人・その他 72.27%

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
証券コード	3853
上場証券取引所	東京証券取引所(マザーズ)
決算期日	3月31日
定時株主総会	毎年6月
基準日	3月31日
公告の方法	電子公告 ただし、やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行います。
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 通話料無料 0120-232-711 (郵送先)〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
特別口座の口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社
同連絡先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 通話料無料 0120-782-031
ホームページ	https://www.infoteria.com/

ご注意

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行株式会社)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三井住友信託銀行株式会社が口座管理機関となっておりますので、三井住友信託銀行株式会社にお問い合わせください。株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行株式会社ではお手続きできませんのでご注意ください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

インフォテリア、ASTERIA、Handbook、Platio、Graviolは、インフォテリア株式会社の登録商標です。その他、各会社名、各製品名は各社の商標または登録商標です。

IRメルマガ配信中

インフォテリアの最近のニュースやトピックス、キャンペーン情報などを、「Infoteria VISION@Mail」として配信いたします。

こちらから
ご登録
いただけます

https://www.infoteria.com/jp/contact/mail/ir_entry/

